

二月の俳句

(2 0 2 0 / 0 2)



目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
11	8	1
）	）	）

今年の二月はまさしく暖冬。

残念なことに世の中は新型コロナウイルス騒動で明け暮れました。我が家ではインフルエンザに罹る者も無く無事に過ごすことができました。

作成した俳句、十分な推敲など行っていません、俳句として体をなしていないものも多いと思います、ただの自己満足です。(宇佐美保幸)・・・

zeirisi777usami@aol.com

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

折り鶴をいくつ作って二月かな
二月はや木瓜の鉢植え陽がそそぐ
あんばいがうまくできない二月かな

お水取り宇宙に届く火の粉かな

立春の隙間隙間に句を作り
寒明けは曖昧もこで不確実
暖かさ中途半端に寒明ける

繋がらぬスマホポケット
改札はスマホでピッ
原節子小津三部作
山手線六つの峠や
人は皆新型大好き

御燈祭山は火の滝春告げる
お菓子横町飴切るリズム日脚伸ぶ



冬と春境界線の春の雲

臘梅が咲いて初心に返れとか
臘梅の幹ひねくれて花素直

通学路薄氷の跡形もなく
薄氷を破ってみたいメダカたち
見てるうちすぐに壊れて薄氷や
滝凍てて地獄の入り口塞ぎたり

マスクして笑うスマホの漫画かな

探梅やスマホで地図GPS
探梅や歩けることに感謝して
のど飴をしゃぶり探梅寺巡り
寺巡りいくつ訪ねて梅探る



紅梅に差別はないか梅世界
 紅梅も迷惑顔にテレビクルー
 紅白の梅が談合咲き時を
 紅白のなますのごとく梅が咲く
 路面電車走る岡山城に梅
 梅園の茶屋で一息お手前で
 白梅を誰が汚した花終わる
 アルバイト巫女の緊張梅匂う
 その先に老人ホーム白梅や
 人の世の寒さを抱え白き梅
 ぶつぶつと一人つぶやき梅白し
 薄紅梅降圧剤など効きもせず
 皮ぬぎて裸になりし猫柳
 猫柳花はいつ咲く銀鼠
 嘘なのかそれとも本気猫柳
 よく見ればさみしさだけ猫柳
 自己主張本気をだせよ猫柳



春寒しペコちゃん人形ふるえてる

春寒し猫が水飲む赤き舌

春こたつ足と足とがからみつく

どんよりと太陽遠く春寒し

政治家を脱臭洗い春一番

竹林は春一番に準備して

スマホなど無用とほざく目刺しかな

我慢我慢目刺しで我慢定年後

義理廃れそれはさておきバレンタイン

星揺れてバレンタインの孤独かな

シクラメン衝動買いし置き場なし

衝動買いシクラメンに取り憑かれ

恋せよと催促しているシクラメン

ろうそくの炎何本シクラメン

惰性なりシクラメンが窓際に



赤椿妖艶に咲きかつ謙虚

紅椿唇描き人恋ふる

神仏いると思うか白椿

白椿落とした花は何色に

音もせず落ちて椿も土となる

死は美なりぼつりぼつりと椿落つ

これもまた安楽死かな椿落つ

尊厳死是非を想いて椿落つ

落つる落つる椿が落つる闇の底

椿散る丑三刻の闇の闇

朝一番花を落として椿の木

恐ろしい童謡もあり藪椿

クロツカス色とりどりに受難曲

郊外の電車の土手につくしんぼ

流氷の音地球の音宇宙の音

見栄捨てて小さく生きて春を待つ

独り者なんでもカレー春を待つ



公園で弁当食べて春を待つ
恨みなど捨ててしまえよ草青む
恨みなど食べて下痢する草青む
草青む青春などは戻らずも

春時雨庭の鉢植えまだ寂し
独り言声に出さねど春の雨
「おくりびと」心の襷に春の雨
天気予報精度も上がり春の雨
春時雨キスの前にはハッカ飴

春泥やただそれだけにぬかるみて
春泥や記憶曖昧こと多し
無意識に鼻歌の出る春隣
鉢植えに肥料を与え春隣
時に出る桃色吐息春隣
春隣苦き思いを飲み込んで



春が来て庭の落ち葉の大掃除
春が来る愛染かつら島津巫矢
巢鴨には地蔵おはして春が来る
戦争せぬため徴兵春は来る
早春や悪夢はいつも脳の中
ルージユした唇噛んで春来る
鉄橋の蒸気機関車春がくる

牡丹の芽だんだん大きく日曜日
ものの芽やそろそろ目覚め吾が庭も
無為の日のパソコン囲碁や二月尽
チヨコレート二粒なめて二月尽



モノロク俳句

モノロクしますます白き梅の花
モノロクし貧乏ゆすり窓に梅
モノロクし三方を丸く梅も咲く
モノロクし気怠さ多く枝垂梅

モノロクを恥じらうごとくひな菊は
モノロクし消えるとき待つ残る雪
モノロクし絵空事なり枯芙蓉

モノロクし記憶無くして野焼かな
モノロクし記憶も消える野焼かな
モノロクし人それぞれに凍返る
モノロクし感情がまた凍返る



ふぐ料理モーロクしても記憶あり

モーロクしのりくらりと春隣

モーロクし断捨離停滞月おぼろ

モーロクし目刺しの味もわからずに

モーロクし頭髮寂し春寒し

モーロクし何度逃げても春寒や

モーロクしバレンタインにぜんざいを

真つすぐに生きてモーロク冴え返る

モーロクし辛抱利かぬ白椿

春の海モーロクすればただ真白

モーロクし全身すべて春の闇

モーロクし壊れゆくのか春時雨

モーロクしついでに行けない春の雲

モーロクしどう生きるかと春の泥



モーロクしまだまだ遠い春の水
モーロクし春には浅き夢多し
春を待つ一病抱えモーロクし
モーロクし関節鳴らして春を待つ
モーロクし遠のきし夢ミモザ咲く
モーロクしすり切れていく春の雨
モーロクし心の壁に春の雨
モーロクしやれやれやっとな春が来て
モーロクしついつい昼寝二月尽



たべもの俳句

蒨の薑食べてしまし残酷に
蒨の薑急いで顔出し食べられて
春の蒨縁は異なるものほろ苦く

食道を春が流れるポタージュが

芹香る「せりかしわそば」銀座そば
せりそばで銀座昼飲み昭和かな
立春のワインはロゼを一息に
立春の卵つやつやオムレツに
立春寒波肉まんを蒸し上げて

不満などあるが当然なめこ汁
不満など言っても無駄だなめこ汁



ほうれん草、ピンクの茎は恥じらいか
インフルエンザ、ステークイ食べて医者いらず
ステークイを三百グラム春を待つ

根菜の煮しめ、たっぷり針供養
クレソンをクレソンのまま添えてみる
クレソンはただ添えられて主張する
マグロの眼、美しくあり怖くあり

春菊を茹でて冷まして合えるなり
春菊のややほろ苦きサラダかな
春菊を摘まば香りが手を染める
春菊を食べれば空気が変化する
春菊は冷たき水で生き返る
春菊やお前もするか口答え
つじつまを合わせて苦し春菊や
春菊や苦み走れば好き嫌い



朝食に小倉トースト春寒し

ダイエツト溢れんばかりレタス盛る
まん丸のレタスを買えば丸くなる
今日不幸買ったレタスが傷みおり
高原のレタス畑に異国人

余寒なおもつ鍋煮込み朝早く
菜の花を食べて命ぞ春が来て
ひれ酒や未練がましく追加する
するめなど少し炙って浅き春
海老天重門前町に春がきて
ヒリヒリとマーボ豆腐で春の宵
梅匂うカレーも匂う路地裏に
炒飯にレシピはいらぬまだ二月
蕎麦うどん栄枯盛衰風光る
朝散歩つくし見つけて朝ご飯



朝食に春大根のおろし添え
春大根の口にとろけしお味噌汁
早春のとろろ昆布と卵かけ
夫婦してマカロンおやつ春隣
粒あんの缶詰開けて春隣
缶コーヒ―苦きを求め春隣
ビーフシチュー―朝から煮込み春隣
春がきて紅茶にたらすウイスキー―
納豆を何分混ぜて二月尽
納豆の糸は絡みて二月尽









